

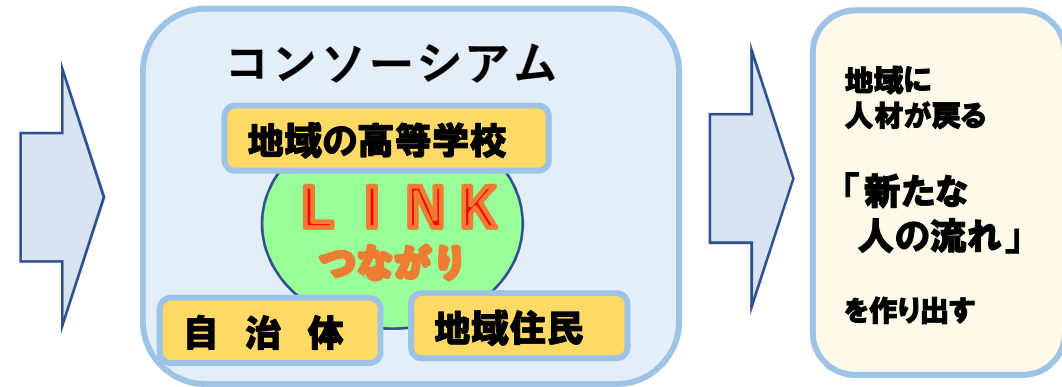
構想：新庄・最上LINKプロジェクト

少子化・人口流出など地域の課題の解決に向けて



地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成する

- ①探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
- ②郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
- ③Society5.0に変容する地域社会の中でAIやデータの力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材



山形県教育委員会、山形県最上総合支庁、新庄・最上地域の8市町村、新庄北高校、新庄南高校、新庄神室産業高校、新庄東高校、東北芸術工科大学、最上教育事務所、一般社団法人とらいあ、地元商工会議所でコンソーシアムを構成

《初年度の主な目標と取組状況》

- A - b 「ジモト大学」プロジェクト／最上8市町村・県提供のプログラム
【目標】本校から参加200名、全体450名⇒本校260名、全体540名
- A - a 地域理解プログラム・A - c 地域理解発展研究
／地域をフィールドとした系統的な探究活動
【目標】成果発表会でルーブリックで最高評価を受ける割間3割
⇒テーマの見直し(前向きに)、地域に出での活動増で4割が最高評価
- A - d 研究発表実践(令和2年度開講／3年次の活動)の開設準備
【目標】開設のため年間指導計画及びテキストを作成⇒予定通り実施
- A - e 地域系部活動の設置
【目標】新設して活動を軌道にのせる
⇒4月に新設して兼部を含めると部員約30名。週2～5回活動。
- B - a 地域連携アプリの開発
【目標】生徒一人あたり1回の利用
⇒年度始めに開発して申込・集計に活用。生徒一人あたり1回以上の利用
e-ポートフォリオ出力機能を追加のための改修を実施中。
- C - b 研究実績の進路指導への活用
【目標】研究実績をAO・推薦入試に活用。うち実績を活用した進学1名
⇒国公立大学AO・推薦合格17名中活用、私大も青山学院大他多数
研究実績を直接活用した進学1名
- D - a 「ふるさと科目」・D - b 「Myエリア・ラーニング」の開設準備
⇒予定通り実施

《主な成果と課題》

- A - a 地域理解プログラム・A - b 「ジモト大学」プロジェクト・A - c 地域理解発展研究
⇒系統だった指導ができた。教育課程の柱として「ふるさと科目」とともに普通教科との相乗効果をさらに高めることが課題。
- B - a 地域連携アプリの開発
⇒申込が簡便になったことで参加者大幅増加。機能追加する振返・e-ポートフォリオ化機能の有効活用が課題。
- C - b 研究実績の進路指導への活用
⇒探究活動が深まることでAO・推薦入試の合格者・合格率が向上
国公立大推薦・AO入試合格17名(合格率81%)
- D - a 「ふるさと科目」、D - b 「Myエリア・ラーニング」の開設準備
⇒年間指導計画も完成し公開授業で試行も終了
次年度の円滑な実施が課題。